

■上海・中国国際輸入博覧会

11月6～7日に上海で中国国際輸入博覧会に参加しました。この博覧会は、33万㎡という広大な会場に日本からも400社以上出展という大規模なもので、このような大規模イベントがこのご時世開催される自体に驚きました。

特に、環境を意識した電気や水素の自動車や、医療分野の展示は目を引き、中国でのこれらの分野への関心の高さを感じました。

しかし、やはり、感染対策は厳重で、参加するためにはPCR検査による陰性証明と上海到着前の14日間の体温確認が必要でした。（PCR検査は大連市内で、100元（約1500円）で受けることができ、検査をうけることについては、日本よりハードルは低いです。）また、入場者も通常の3分の1程度に制限されていたとのこと。

食品関係は、ウイルス付着の確認などで検疫が厳しくなっていて、サンプルが届いていないブースも多く、また日本から売り込みに来られないため、オンラインでの商談がほとんどで、制約が多かったことは否めませんでした。現状でできる範囲で、関係者が苦心して取り組んでいる印象でした。



食品ブースの様子
(昨年はもっと混雑していたとのこと)

水素自動車の展示

■大連に渡航して1か月余りを振り返って

日本に旅行して買い物ができない今も、中国国内では日本製品の需要は高く、アフターコロナの旅行先として、日本に行きたいという方も多いです。この年末にかけて、日本に関するプロモーションイベントが各地で多く開催されており、感染対策を厳格に行いながらも、中国経済の力強さと日本への関心の高さを感じます。

一方で、一部の飲食やサービス業などにおいては、コロナ禍以前より人員を大きく削減していて、せっかく感染を抑え込んで賑わいが戻っても、完全には対応できていないような事例も散見され、元気な中国とはいえ、完全には立ち直ってはいないとも感じます。

このような状況の中、私たち事務所スタッフは、現在可能な形で本市のプロモーションや現地情報の収集に努め、本格的な往来、経済活動再開時に向けて、需要の掘り起こしを図りたいと考えています。中国関係で何か御用がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。